

■北垣国道 内務官僚。京都府知事として琵琶湖疏水を国家プロジェクトで実現、北海道庁長官として道内鉄道網を整備した。

きたがきくにみち

..... 1836= 但馬国養父郡能座で、中農の郷士北垣三郎佐衛門の子に生まれる。通称は晋太郎。

大塩平八郎乱 1837= 1歳:

阿部正弘首座 1845= 9歳:

..... 1847=11歳: 同郷の宿南村の儒家で但馬聖人と言われた池田草庵の私塾(青谿書院)で漢学を学び始め、

ペリー来航・1853=17歳: ペリー来航で、攘夷論に傾倒し上京。

開国開港・1854=18歳:

長州藩士野村右中らと知り合い、浪人中の筑前の志士平野国臣や鳥取藩士松田正人(道之)らと交際、郷里に帰ると尊皇討幕の二千余りの農兵を募って、機を窺ううち、

桜田門外変・1860=24歳:

8月18日政変 1863=27歳: 大和十津川の乱が起こって混乱を増すなか、叔父の北邨孫右衛門方に潜んでいた平野国臣らに決起を促され、公卿澤宜嘉を主将として生野銀山代官所を襲撃(生野の変)するも、長州からの支援無く敗れ四散、鳥取城下に逃れ、八木良造と改名し、機密周旋方の松田と行動を共にし、その推挙で鳥取藩士になって"正義党"を結成するも、藩政急変で、佐幕派に狙われるようになり、柴捨蔵と変名して、長州に潜み、高杉晋作の奇兵隊に身を寄せ、後に京都府知事として対抗する滋賀県知事になる籠手田安定と同じカマのメシを食す。

明治維新・1868=32歳:

\*藩主毛利敬親に召されて長州藩士となり、山陰道鎮撫使の西園寺公率配下の長州軍人小笠原美濃輔率いる徴兵隊長になるや、越後国新発田にこもる会津兵討伐(北越戦争)に成果を挙げ、一躍、新政府に認められ、播磨周り5国内の幕府。旗本領を管轄すべく設置した久美浜県の判知事に任命され、地方官として出発、

戊辰戦争終・1869=33歳: 弾正台の大巡察や、

学問のすすめ 1872=36歳: 弾正台の大巡察や、

明治6年政変 1873=37歳:

初の民間工場 1875=39歳: 元老院少書記官など、中央政府の仕事も掛け持ちながら、

三つの反乱・1876=40歳: 熊本県の大書記官になり、地域開発の提案など、地方にも中央にも強い政治家になって行く。

琉球処分・1879=43歳: 自由民権運動の激しい高知県県令に就任すると、高知市の上町会規則改正に伴う女性参政権の議論に関わり、高知県からの阿波国分県令に取り組み、

..... 1880=44歳: 実現した徳島県令を兼任。発令された集会条例にもとづく取り締まりの苦勞も評価され、

明治14年政変 1881=45歳: \*地方官で最も格の高い京都府知事に栄転するとともに、静屋居士の名で日記「塵海」をつけ始める。前任の京都府知事榎村正直は府令をもって剣術を禁止するなど専制横暴だったが、北垣は知事に就任するや榎木町に"体育場"と称する大道場を設立して剣術を奨励し、京都の街は、東京奠都などにより人口流出・産業衰退により、活力が失われつつあって、府民の期待は高く、角倉了以以来度々計画されていた琵琶湖疏水のことを知るや、調査を命じ、具体化すべく、文明開化の工学ブームのなか、3年前まで工部卿で、地方官会議を新設するなどして、大久保利通亡き後内務卿を継いでいた政権トップ伊藤博文に相談して賛意を得、次いで、大久保の遺志を継ぐと自認し、金の面に関わることになる大蔵卿松方正義に話をすると、大久保が政治生命をかけてまで完成させようとした国家プロジェクト安積疏水のことを教えられ、

新体詩抄・1882=46歳: その通水式の日、工事主任の農商務省南一郎平に会い、設計したファン・ドールンを紹介してもらおうとするも、すでにオランダに帰国。南自身に来てもらい、水利目論見書を提出して貰うも、灌漑中心で、長州閥になっていた内務省から受け入れられず、高知から測量師嶋田道生を呼び寄せるなど、心ははやり、

岩倉具視没・1883=47歳: 工部大学校を卒業した田辺朝郎を採用。日本立憲政党新聞から工事費の見積り甘さなどか批判され、

秩父事件・1884=48歳: 籠手田滋賀県知事からも批判される一方、内務省土木局お雇いのオランダ人技師で、"日本の治山治水の父"となるヨハネス・デレーケからコストパフォーマンス面で批判されて"気落ち"などするうち、

内閣発足・1885=49歳: 着工のメドがついてきたので関係者が現地視察、ついに内務卿から特許が出た。

帝国大学始・1886=50歳: 内務省土木局土木部長に異動した南は、立場上、地方の一プロジェクトの担当になれないことも明確になったことから、田辺朝郎を工事部長として着工。最難関の第一隧道は湧水に悩まされ、シャフト底に大型ポンプを据え付ける際、ポンプ主任の大川米蔵が第一の犠牲者となって衝撃を受けるも、

国民之友始・1887=51歳: ついに貫通し、工事全体の成功のメドが立ったが、この間、負担金が増大し続けた地元住民の不満が爆発、病気療養中、自ら説得するも、収まらなかったが、徴収制度の廃止で沈静化。

初の対等条約 1888=52歳: 土砂崩壊事件が起きたが、65名全員を無事救出し、結果として成功を確信。後に代表的な風景となる南禅寺水路閣も完成。工期途中でアメリカ合衆国に派遣した田辺は、当初の計画になかった水力発電を取り入れ、日本初の営業用水力発電所となる蹴上発電所を建設することとし、

帝国憲法公布 1889=53歳: 大阪市にあった第三高等中学校が京都市内の吉田山に移った開校式に京都府知事として出席。すでに写真技術はあったが、高知県時代に知っていた著名な日本画家河田小瀧を採用して、疏水の様を絵にして遺すことにし、当時の自然や工事風景を克明に伝える貴重なものになった。「鉄道に関心を持ち始め、「鉄道問答」、

帝国議会始・1890=54歳: \*琵琶湖疏水を完成させると、日本人だけで成し遂げた初の大プロジェクトとして、大騒ぎになる。天皇皇后を迎えて通水式と竣工式を行い、維新以来の初の京都行幸に市内は沸き立ち、船で疏水を下った中央政府要人は感激、彼らの揮毫が、後に彫刻された額となり、トンネルに掲げられる。

大本教・1892=56歳: この年、福沢諭吉が時事新報で、京都は神社仏閣等の歴史遺産を生かすべくと、疏水開発批判をしたが、今や、疏水そのものが文化遺産になっているのが皮肉である。「京鶴鉄道問答」を出版。京都府知事を退官し、北海道庁長官に就任、もともと港湾部が浅かった上に土砂の堆積が重なって大型船の接岸が不可能になっていた函館港の改修についての要望書「函館港湾浚渫修築并船渠設置意見上申書」の提出を受け、港内の浚渫や砂防堤・防波堤・灯台の設置、埋立てによる埠頭の建設などの改良工事を指示すると、

日清戦争始・1894=58歳: 第三高等学校と改称した(現在の京都大学)。\*北海道の拓殖と防備を兼ねて北海道官設鉄道を計画。女婿となっていた田辺を招聘し、建設のための調査を依頼した。田辺は上川線(現函館本線の一部)の空知太(現滝川市)〜旭川市間を手始めに、のちの宗谷本線、根室本線の一部となる区間の調査と建設指揮にあたった。

日清戦争終・1895=59歳: 京都に大日本武徳会が設立され、北垣は大日本武徳会の役員を務めた。京都では、伏見との間に日本初となる路面電車(京都電気鉄道)の営業運転が始まり、近代産業都市京都の建設に大いに貢献することになる。

白馬会・1896=60歳: 高野佐三郎は北垣の剣術について、'北垣男爵は、実に柔らかで、あれが本当の山岡流です'と称えている。退官し、拓殖務次官に就任(翌年まで)。維新の功により男爵。

八幡製鉄始・1897=61歳: 正三位。

子規句歌革新 1898=62歳: 函館港湾浚渫が竣工。

Bushidou・1899=63歳: 錦鶏間祇候、貴族院勅選議員。

田中正造直訴 1901=65歳: 「日記「塵海」はこの年で終わるが、身辺のみならず明治期の政局や地方経営、近代京都の歴史を理解するうえで貴重な一次史料となっていて、最近、活字化された。

日露戦争終・1905=69歳:

満鉄発足・1906=70歳: 勲一等瑞宝章、

アヲキ 創刊・1908=72歳:

明治天皇没・1912=76歳: 大日本帝国国道形制定の大会に出席。貴族院を退き、枢密顧問官に就任。

21ヶ条要求・1915=79歳: 御紋付銀杯、

民本主義・1916=80歳: 京都で没した。正三位、旭日大綬章、

京都市左京区聖護院の琵琶湖疏水のほとりに北垣国道像。田辺と二人三脚で挑んだ琵琶湖疏水工場の物語が大坂書籍の小学校社会科教科書に掲載されていた。現在の京都の政財界において、歴代京都府知事の中で北垣を高く評価する人々が多い。

Wikipedia「北垣国道」を枠組みに、織田直文「国宝・琵琶湖疏水 新装復刻版」で大幅追補、